



まちづくり

プロジェクト
19

多文化共生 ～ 多文化共生の地域社会づくり ～

県内には多くの外国籍県民の方々が暮らし、その国籍も多岐にわたっています。そうした中で、外国籍県民が抱える課題は教育や子育て、高齢化など多様化、複雑化しています。また、県内の大学等には多くの留学生が在籍しており、就職・生活・交流など留学生の様々なニーズへの対応も求められています。

さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオリンピック・セーリング競技の会場が県内に決定したことを受け、県民の国際理解を推進する必要があります。そこで、外国籍県民がくらしやすい環境づくり、神奈川でくらし学ぶ留学生への支援、地域における多文化理解の推進などに取り組み、国籍に関わらず、お互いが理解し合い、県民一人ひとりが心豊かに生きがいを持って暮らすことができる多文化共生の地域社会づくりを進めます。



▶ 多文化共生社会の実現

▶ 留学生にとって魅力ある環境づくり

民 産 教

具体的な取組み

A 外国籍県民がくらしやすい環境づくり

- 県内で学び働く外国籍県民が地域で円滑なコミュニケーションを図ることを支援するため、国際言語文化アカデミアにおいて、外国籍県民を対象とした日本語講座やボランティアを対象とした語学講座などを実施します。
- 県立高校に通学する日本語を母語としない外国籍の生徒などが充実した学校生活を送れるよう、通訳や学校生活を支援するサポーターを派遣する取組みを進めます。
- 外国籍県民と共に生きる地域社会づくりのため、外国籍県民自身が外国籍県民に係る施策を協議する場を設けます。また、外国籍県民が安心して適切な医療を受けられるよう、関係機関と連携し、医療通訳を養成・派遣するとともに多言語による行政情報の提供を行います。
- 災害時における外国籍県民支援の充実を図るため、市町村や関係機関とも連携して多言語による情報発信などの取組みを進めます。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
外国籍県民のコミュニケーションを支援するための日本語講座などの実施 実施主体 県				
日本語を母語としない外国籍生徒などに対する学習や学校生活の支援 実施主体 県				
多文化共生の地域社会づくりに向けた外国籍県民のニーズを把握 実施主体 県、民間				
災害時における外国籍県民支援の推進 実施主体 県、市町村、民間				

B 留学生支援の充実

- 神奈川でくらし、学ぶ留学生のニーズに応じて、就職・生活・交流など幅広い支援を行うため、留学生支援拠点「かなファンステーション」を活用し、大学やNPO、企業などと連携した取組みや、情報発信などを行います。
- 県内での就職を希望する留学生を支援するため、企業や大学などと連携して、就職支援セミナーの開催や、留学生と県内企業とを結ぶマッチング機会の提供などに取り組みます。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
留学生支援拠点「かなファンステーション」の運営 実施主体 県、民間				
企業や大学と連携し留学生の就職をきめ細かく支援 実施主体 県、民間				

C 多文化理解のさらなる推進

- 地域における多文化理解を推進するため、地球市民かながわプラザを中心とした学習機会や情報の提供を行うとともに、外国籍県民やNPOなどと連携した多文化共生イベント「あーすフェスタかながわ」の開催や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオリンピック・セーリング競技の県内開催に向け、地域のコミュニケーション力を向上する施策を展開します。
- 子どもたちの国際理解が深められるよう、留学生による学校などでの国際理解講座の実施に取り組む関係機関への支援を行うとともに、コミュニケーション能力の向上を図るため、国際言語文化アカデミアにおいて教員に対する専門研修を実施します。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
地球市民かながわプラザを中心とした多文化理解の推進 実施主体 県、民間				
留学生との交流による子どもたちの国際理解の機会提供 実施主体 県、市町村、民間				